

令和 2 年度使用

小学校用教科用図書研究資料（概評）

【国 語】

教科用図書北諸県採択地区協議会

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

（観点１） 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発行者	概 評
2 東京書籍	<p>(1) 単元の構成に関しては、「つかむ」「取り組む」「ふり返る」の３段階に分けて構成されるとともに、各単元のはじめや終わりに育成すべき力を示した「言葉の力」を設け、「言葉の力」を確実に育成できるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 単元の配列については、４月を学習の基盤作りの期間として重視し、上巻頭に対話の仕方や情報の扱い方、図書館活用の仕方等を配置することで、一年間を通じて活用したい基礎的・基本的な事項を年度当初に指導できる工夫が見られる。</p>
11 学校図書	<p>(1) 単元の構成に関しては、「めあてを確認する」、「取り組む」、「振り返る」という３段階で構成されるとともに、見通しをもって学習に取り組ませたり、振り返りの観点を示すことで次の学びにつなげさせたりするような工夫が見られる。</p> <p>(2) 単元の配列については、３年以上の上巻に「論理的思考力」、下巻に「感性的思考力」を育てる教材を配置することで、情報の整理の仕方等を演習を通して体感的に理解させ、他領域や他教科の学習で活用できる力を育てる工夫が見られる。</p>
17 教育出版	<p>(1) 単元の構成に関しては、単元の目標に合わせた学習過程が明示されるとともに、単元末の「ここが大事」において学習のポイントや学習用語が示されており、内容の理解と定着が促されるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 単元の配列については、一つの領域を集中して学習する「基本単元」と複数の領域を関連させながら学習する「関連単元」とをバランスよく配列することで、一年間の中で指導の重点化や効率化を図る工夫が見られる。</p>
38 光村図書出版	<p>(1) 単元の構成に関しては、単元の目標に合わせた４段階の学習過程が明示されるとともに、単元末の「たいせつ」「いかそう」で学習のポイントや他単元・他教科とのつながりが示され、児童の学習意欲を喚起するような工夫が見られる。</p> <p>(2) 単元の配列については、「読むこと」と「書くこと」等、領域を関連させて構成したり、短い説明文の「練習」教材の学習後に長い説明文教材を配置したりすることで、身に付けた力を次の学習に生かして指導できる工夫が見られる。</p>

2 内容や指導の充実

(観点2) 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発行者	概 評
2 東京書籍	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各学年の最初に対話的な学びの基礎・基本となる「話すこと・聞くこと」の小単元を設け、年間を通して対話的な学びが意識できるようにしている。また、各単元に導入ページを設け既習事項を想起させる等、主体的な学習を進められる工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「ことばあつめ」「言葉の広場」を設け、語彙を広げたり生活の中で活用させたりできるようにしている。また、当該学年の教材文と関連させながら、つまずきやすい事項について習得を確かにする練習教材を設け、定着・習熟を図る工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各単元冒頭のページに、児童に学びの自覚を促す「つかむ」及び育成すべき力を示した「言葉の力」を明記し、単元末で振り返りの観点を示した「ふりかえる」及び「言葉の力」を提示している。また、各単元末の「てびき」で単元全体の中心的な課題となる「単元の問い」を設け、児童の学びを深めることができるような工夫が見られる。</p>
11 学校図書	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、読む単元の最後に話し合う活動を設け、対話を通して読みを深められるようにしている。また、3年以上の目次の後に、当該学年で身に付けたい力とそのために必要なことを明示し、見通しをもたせることで、主体的な学習を進められる工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、言葉の特徴や由来に着目させる「言葉のいずみ」を設定し、児童の言葉に対する知的好奇心を高めている。また、前学年の既習漢字を使った言葉をつないで文をつくる練習教材を各学年に設け、定着・習熟を図る工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、4年以上の説明文教材で、同じ題材について書かれた複数の文章の構造や表現を比べて読む「比べ読み教材」を設定している。また、3年以上に情報の扱い方を演習させるための「論理的思考力教材」と「感性的思考力教材」を系統立てて設定し、各領域の学習や他教科等に生かすことができるような工夫が見られる。</p>

17 教育出版	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、単元末の「てびき」の中に、想定される児童の発言例を示し、対話的な学びが図られるようにしている。また、「てびき」の中のキャラクターが、読み進める方法等の具体的な学びの観点を示しており、主体的な学習を進められる工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「言葉を学ぼう」「言葉をふやそう」のページを設け、発達の段階に即した語句が重点的に指導できるようにしている。また、どのような場面でその言葉を使うのかが分かる例を多く示し、実生活に生かせるような語彙指導の工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各単元末の「てびき」で、他教材でも活用できる汎用性のある学習のポイントをまとめた「ここが大事」を設定している。また、「読むこと」単元の「てびき」では4ステップ構造の学習過程を示して、学ぶ内容や展開が分かるようにするとともに、読みの観点を示して「言葉による見方・考え方」を働かせるための工夫が見られる。</p>
38 光村図書出版	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、場面に応じた話合いの仕方がイラストと話例で示され、対話的な学びが図られるようにしている。また、各単元の最初の「単元扉」で、作品への期待感を高めるとともに、読みの着眼点を示すことで主体的な学習を進められる工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、巻末「ことばの宝箱」で「考えや気持ちを伝える言葉・学習に用いる言葉」を提示したり、「季節の言葉」を重点的に取り上げたりして語彙を広げている。また、「情報の扱い方に関する事項」に焦点を当て、単元と関連させる工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、単元末の「学習」ページに、育成すべき力や手順、学びのポイント等を示した「たいせつ」及び、他教科や生活に生かす場面を示した「いかそう」を設定している。また、3年以上の1学期の説明文教材では、児童に文章の構造を学ばせる見開き完結の「練習教材」を単元冒頭に設け、児童の学びの定着を効果的に図るための工夫が見られる。</p>

3 利便性の向上

(観点3) 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発行者	概 評
2 東京書籍	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、児童にとって定着が難しい内容を身に付けさせることができるように、練習教材が配置されており、デジタルコンテンツを活用してさらに習熟を図ることができる工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童にとっての分かりやすさについては、新出漢字を欄外で四角囲みにし、文字のサイズを大きくすることで、漢字を際立たせて印象に残す工夫が見られる。</p>
11 学校図書	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、適宜デジタルコンテンツを活用させることができるように、QRコードが単元内に掲載してあり、1年の発音指導においては、動画により効果的な口形指導ができる工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童にとっての分かりやすさについては、本文中の新出漢字には単語の単位ごとにルビを振ることで、読みの負担を軽減する工夫が見られる。</p>
17 教育出版	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、児童の学びを広げることができるように、作者等の経歴や他の著作物、教科書に掲載されている以外の古典等の発展的内容をデジタルコンテンツを活用して調べさせる工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童にとっての分かりやすさについては、1年、2年の新出漢字の書き順について欄外に示すことで、発達の段階に配慮した工夫が見られる。</p>
38 光村図書出版	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、デジタルコンテンツを活用させることができるように、QRコードが単元内に掲載してあり、教材に関連する資料や人物等を調べさせたり、映像によって理解を深めさせたりする工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童にとっての分かりやすさについては、新出漢字を本文下の欄外だけではなく、単元の最後にもまとめて示すことで、振り返りをしやすくする工夫が見られる。</p>

4 地域の願いや思い、児童の実態等

(観点4) 内容や心情を正確に読み取ったり、適切に表現したりする力を身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発行者	概 評
2 東京書籍	<p>(1) 内容や心情を正確に読み取る力を身に付けるために、「読むこと」の全ての単元に「言葉の力」を明記し、付けたい力を明確にして学習が進められるようにしている。また、単元で必要な既習の言語事項の説明を「おさえる」で示し、読解力を高める工夫が見られる。</p> <p>(2) 適切に表現する力を身に付けるために、てびきに単元の「問い」を設定し、言語活動を通して「問い」を解決していく対話的な活動を取り入れた工夫が見られる。また、自分や友達の思考を深めるために、キャラクターのつぶやきなどを「見える化」した工夫が見られる。</p>
11 学校図書	<p>(1) 内容や心情を正確に読み取る力を身に付けるために、単元を「読むこと」と「書くこと」を往還して進める構成にし、言葉の力を明確にして学習が進められるようにしている。また、「国語のカギ」では、学習に必要な技能や言語活動のヒントを示す工夫が見られる。</p> <p>(2) 適切に表現する力を身に付けるために、「話す・聞く、書く」単元では単元の流れが示され、段階を踏みながら学習技能を付けていく工夫が見られる。また、学習のポイントや振り返り、注意する点についてマークで確認できるような、表現力を高める工夫が見られる。</p>
17 教育出版	<p>(1) 内容や心情を正確に読み取る力を身に付けるために、「読むこと」の単元で本教材の前に練習用教材を設定し、本単元で付けたい言葉の力を使って読めるようにしている。また、単元に「ここが大事」を設定し、本単元で付ける言葉の力の具体的な方法を明示する工夫が見られる。</p> <p>(2) 適切に表現する力を身に付けるために、対話を軸にしながら学習を進めるような工夫や、「言葉を学ぼう」「言葉を増やそう」で語彙力を増やす工夫も見られる。また、学習内容の要点をイラストや図表で分かりやすくまとめ、表現力を高める工夫が見られる。</p>
38 光村図書出版	<p>(1) 内容や心情を正確に読み取る力を身に付けるために、「読むこと」で学習課題を上下二段組で提示し、下段に思考や交流の具体的なポイントを示し、見通しをもって進められるようにしている。また、「たいせつ」では、単元で付けたい力がひと目で分かるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 適切に表現する力を身に付けるために、「書くこと」でははじめに具体的な言語活動の流れが示されている。また、学習の流れに合わせて下書きやメモの例を示すことで、イメージしやすくする工夫が見られる。「いかそう」「じょうほう」では、言語能力を生かす活動が組まれ、表現力を高める工夫が見られる。</p>

4 地域の願いや思い、児童の実態等

(観点5) 指導事項を系統的・関連的に指導するために、どのような工夫が見られるか。

発行者	概 評
2 東京書籍	(1) 指導事項の系統性・関連性をもたせるために、巻末に「前学年で学習した言葉の力」を掲載している。また、単元の導入の「おぼえているかな」で関連した言葉の力を提示することで、これまでの学習内容と関連付けて学習できるような工夫が見られる。
11 学校図書	(1) 指導事項の系統性・関連性をもたせるために、巻頭に見開きで問題解決的な学習過程に沿って学習内容を示している。また、「○学年でつけたい力」と「国語のカギ」を関連させながら、見通しをもたせて学習できるような工夫が見られる。
17 教育出版	(1) 指導事項の系統性・関連性をもたせるために、巻頭に「言葉」について系統性を示し、一年間の学習の見通しがもてるようにしている。また、付録に「言葉のまとめ」や「学ぶときに使う言葉」を掲載し、文型や言葉を確認して進められる工夫が見られる。
38 光村図書出版	(1) 指導事項の系統性・関連性をもたせるために、巻頭に領域ごとに学習内容を示し、前学年の学びとのつながりを確認できるようにしている。また、巻末の「学習に用いる言葉」を本文教材と連動させ、反復しながら学習できるような工夫が見られる。